

# エネルギー・環境分野の中長期的課題解決に資する新技術 先導研究プログラム 平成30年度予算額 30.2億円（26.0億円）

## 事業の内容

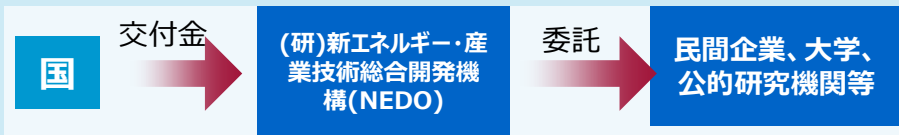
### 事業目的・概要

- 2050年までに温室効果ガスを80%削減するなど、エネルギー・環境分野の中長期的な課題を解決していくためには、既存技術の延長では不十分であり、従来の発想によらない革新的な技術・システムが必要です。
- このため、今のうちから中長期的に花開く新技術を発掘し、世界を先取る将来の国家プロジェクトを次々と生み出す土壌を形成していくことが重要です。
- 他方、中長期を見据えた企業の研究開発は低迷しており、将来の国家プロジェクトにつながる新技術を創出する土壌が失われていく恐れがあります。
- このため、開発にあたってリスクを伴う技術である一方で、社会へのインパクトが大きく、世界を先取る革新的な技術の原石を選びすぐり、将来の国家プロジェクトにつなげていく先導的な研究を行います。また、技術戦略策定のための調査も行い、国家プロジェクトの立ち上げの一層の円滑化を図ります。

### 成果目標

- 平成26年度から平成35年度までの10年間の事業であり、再エネ・CO<sub>2</sub>削減等の分野の中から、本研究成果を活用した研究開発プロジェクト（国家プロジェクト等）の創出を目指します（平成35年度目標49件）。

### 条件（対象者、対象行為、補助率等）

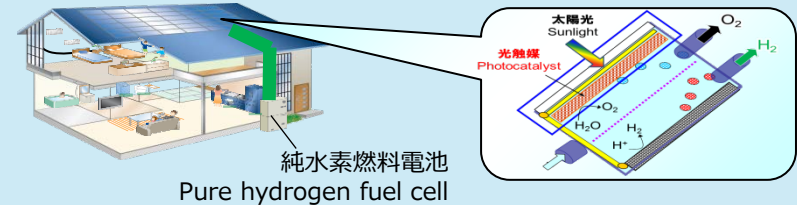


## 事業イメージ

### 【対象分野】

- 再エネ・CO<sub>2</sub>削減等の分野に資する研究領域  
(例) 地熱発電次世代技術の開発  
CO<sub>2</sub>フリー水素研究開発、CO<sub>2</sub>低コスト回収技術開発  
／等
- ※ CO<sub>2</sub>フリー水素研究開発の例：Nb(ニオブ)窒化物系光触媒材料を用いた高効率太陽光水素生成デバイスの研究開発

太陽光水素生成デバイス  
Solar hydrogen generation device



### 【研究開発の種類】

- シーズ活用研究開発：将来の国家プロジェクト化を目指す先導研究。1年間先導研究を実施し、中間評価により、継続が必要と判断された案件については、最長2年間の先導研究を実施。予算上限：1億円程度／年・件、委託。
- シーズ探索研究開発：エネルギー・環境イノベーション戦略で特定された分野を中心に2050年頃という長期的観点から、革新的シーズ探索研究開発を実施。途中、中間評価を行って、継続が必要と判断された案件については、最長5年間の研究開発を実施。予算上限：2千万円程度／年・件、委託。